

# テレビ・ドキュメンタリーとメールを活用した 双方向型授業の実験

木野 茂

(大阪市立大学 大学教育研究センター)

## 1. 双方向型授業を目指して

授業の改善のためには、これまで授業内容や授業方法に関する様々な工夫と改善策が提案され、実践されてきた。しかし、その多くは、いかに良く教えるかが目的であった。

私もこの10年間、新教育課程の全学共通教育の中で4つの総合教育科目を開発し、実践してきたが、最も力を入れてきたのは、いかに良く教えるか以上に、授業を通していかに学生が自ら考えるようになるかであり、いわゆる双方向型授業の実験である。

表1は平均的な講義型授業に対する4つの科目の特長と工夫をまとめたものである。

表1 双方向型授業のタイプ

	規模(人)	読む	観る	聞く	語る	書く	
(平均的な講義)	100~200	△	△	◎	—	○	講義中心型
公害と科学	100~200	○	○	◎	※	○	双方向型講義
科学と社会	50~70	○	○	○	○	○	双方向フルコース
ドキュメンタリー 環境と生命	50~70	○	◎	△	◎	○	映像活用双方向授業
人間と科学・演習	10	◎	—	—	◎	◎	小人数セミナー

「読む」にはテキストやビデオなどを含めても、普通の授業では1点にも満たないが、私の授業では平均2~3点である。これは双方向型の授業による効果の特長である。

小人数セミナーは必然的に双方向型であるにしても、一般授業を双方向型にするには授業設計や授業方法で意識的な工夫が必要である。表1に示したように、私の場合、セミナー以外では「観る」と「語る」に力点を置いている。

「観る」は、マルチメディアを使って学生の理解を助けるだけでなく、授業に変化を持たせることであるが、その効果は視聴覚教材の作成や選定と授業の中での使い方による。

「語る」は質疑やディスカッションのことであるが、普通の授業の中で実施するには時間的な制約が大きい。私の「公害と科学」(※)では、「なんでもカード」を自由に提出させ、次の授業時にそれぞれのカードにコメントをつけて編集したプリントを配っている。

## 2. テレビ・ドキュメンタリーとメールを活用した双方向型授業の実験

今回報告する「ドキュメンタリー・環境と生命」は昨年(2002年)後期に開講した新科目で現在2期目を進行中の実験科目である。

1. まず、科目の主題と目標をシラバスから紹介する。

「現代の自然科学と人間の関わりの中でも、環境と生命は人々から大きな関心をもたれているテーマであり、本学でも関連した科目がいくつも開講されている。ところで、この種のテーマではドキュメンタリー(映像記録)が授業の極めて有効な素材であるが、セメス

ターの時間数との関係で、講義の補助的な説明に使うのが精一杯である。

一方、現代の学生は様々な媒体による膨大な情報に囲まれているが、その中から必要な情報を得ることに慣れていない。ドキュメンタリーはその貴重な情報の一つである。

そこで、本科目は他の講義主体科目と相補的なアプローチを目指して、テレビ・ドキュメンタリーの鑑賞とディスカッションをメインに展開する。もちろん、単なる鑑賞で終わるのではなく、その中から問題を読み取り、場合によっては批判的な考察も含めて、自分の考えをまとめるとともに、他人の考えを知って、ディスカッションすることが目的である。」

2. この科目での双方向型の工夫は以下の通りである。

1) 授業のメインはドキュメンタリー（50～60分）の鑑賞で、講義は行わない。

ドキュメンタリーで取り上げられている問題を考えるために必要な知識は毎回A4・4頁のプリントにして渡し、参考文献やHPを紹介し、自分で調べるように指導する。

2) 授業の後、自分の感想や意見をメール（400～600字）で出す。

学生には受講にあたってEメールの送受信やHPの閲覧ができることを条件にしている。学生は授業の後すみやかに学内の端末または自分のパソコンからクラスメンバーのメーリングリストに投稿する。

3) 次回の授業の出席時に、最も優れた意見を投票する。

自分以外の人の意見の中から選ぶためには、必然的にメーリングリストを全部読まなければならない。投票で選ばれた最多得票の学生に対しては拍手で表彰している。

4) 教室でディスカッションを行う時間を設ける。

メーリングリストの意見をめぐって自由にディスカッションする時間を設けている。

5) 科目専用のHPを作り、授業の記録を載せる。

投票で学生が選んだ意見と、私が別個に選んだ意見をHPで紹介し、自分たちで作る授業という実感を持たせる。<http://homepage2.nifty.com/yukidon/kino-doc.html>

6) 成績評価に学生評価と授業への意欲度を取り入れる。

成績評価はメール7、ディスカッション1、レポート2の割合で行うが、メール評価には学生の投票結果を反映させ、ディスカッションも意欲度として反映させている。

### 3. 学生の評価

授業の最後に行ったアンケートによれば、授業の難易度は受講前は「普通」と「やや大変」の間だったのに対し、受講後の感想は「やや大変」と5段階評価で0.57ポイントも変わっていた。しかし、授業への満足度は「ほぼ満足」を上回っており、感想文でも思ったより大変だったが、授業の魅力に後押しされて受けた甲斐があったとするのが多かった。

### 4. 今後の課題

授業のどこが良かったのかを聞いたところ、ドキュメンタリーをトップに、プリント、メーリングリストまでは「良かった」より以上の評価で、ホームページ、投票は「良かった」から「普通」の間であったが、ディスカッションだけは「普通」に近かった。

以上のように、ドキュメンタリーとメールを活用した双方向型授業としては成功したと判断できるが、50人もの意見を毎回メールで読むだけでディスカッションした感じになり、授業時のディスカッションが思ったほど弾まないのは人数が多いからか、さらに検討したい。